

予備的考察

観察と実験を通して明らかになる、宇宙と地球における〈いのち〉の世界

地球における『生命誕生』（中沢弘基 2014年5月20日）と宇宙物理学における人間原理

人間と論理の世界の構築＝印欧語世界の展開：粒のいのちの展開と西欧的近代化とその限界

倫理的人間共同の世界の展開と構築＝ヘブル・日本的伝統の形成

21世紀における地球的課題に向けての人類の倫理的世界の形成（20世紀末の共同体主義）

はじめに：1932年、関口存男との出会い

1. ゲーテは「ファースト」において、〈いのち〉を追求した。

メフィスト（M）の世界とファースト博士（F）の世界：両者の契約

悪魔・メフィストは瞬間の支配者、

ファースト博士は、書齋で「学問は灰色で、命は緑である」ことに気づき、〈いのち〉の探求に。

いのちの世界の探求：Der Mensch irrt, solange er strebt. その助け手・メフィストの登場

Fが「瞬間よ止まれ、汝はあまりにも美しいから」とFが言う迄、Fに奉仕。その瞬間FはMの奴隷となる約束。

2. 「原初に言葉があった。」（ヨハネ1：1）：ここでファーストは先へ進めなくなる。

ギリシャの論理の世界からヘブルの愛の世界へ：Wortの言い換え→ Wort Sinn Kraft Tat

Wort: F博士は学者人生の無意味さに気づき（科学・技術の限界）悩む、そこへMが登場。

Sinn: 復活祭の朝、グレーチェンを見初める。ワルプルギスの夜、享樂的集いと突然の終り。

Kraft: 大干拓事業、その完成と一組の老夫婦の運命。その老夫婦への愛がFをTat（業）の担い手へ
このゲーテの意識の展開は、近世から現代への人類の精神史でもあった。

一、〈いのち〉の開拓者：私が影響を受けた人々

金子武蔵『倫理学概論』、「日々」の要求」への応答における人生と倫理的世界

K. Jaspers: 実存的交わりの世界、

1952年：T. Bohman、C. Tresmontant: ヘブル的創造（いのちと聞く）とギリシャ的製作（輪廻と視る）

M. Scheler: 『宇宙における人間の地位』→A. Gehren 『人間』→宇宙物理学（人間原理）

和辻哲郎: 『人間の学としての倫理学』: 粒の〈いのち〉＝西欧、場の〈いのち〉＝日本

清水 博『〈いのち〉の普遍学』（2013）、日本の特異な地位（DNAから見た）

E. Fromm（人間の社会）、A.H. マスロー（欲求五段階）、E.H. エリクソン（精神発達八段階）: 健康な成長
ピエール・テヤール・ド・シャルダン『現象としての人間』（1938）、今日の宇宙物理学＝人間原理の先取。

渦動における宇宙の〈いのち〉: 接線エネルギーと動径エネルギー、オメガ点としての神の国

量子力学: スピンを持つ（17の）素粒子の混沌とそれを覆う闇とのインフレーションとビッグバン（138億年前）→宇宙の大規模構造→太陽系（45億年前）→有機分子のビッグバン（40億年前）→カンブリア大爆発（約5億5千万年前生物の大爆発）→現生人類（16~10万年前）→バベル（3万年前？望月清文『三重構造の日本人』）→民族社会の成立（B.C.13世紀ころ）→人格的交わり（A.D.1世紀: キリスト共同体の出現）

二、〈いのち〉を担う、日本の特別な地位: 出アフリカの3系統の人類の全遺伝子が日本で共存、

ユダヤ的伝統との関係：「けがれ」と日本社会、武家イエ社会の成立、

日本の近代化と世界：日本は東洋の独立と共存を意図し、欧米の植民地政策に立ちはだかる。

蒋介石は欧米の植民地政策に協力、朝鮮は戦後併合時代の日本の「七恩」を「七奪」とする。

崔基鎬『歴史再検証 日韓併合 韓民族を救った「日帝 36 年」の真実』（祥伝社）

加瀬英明 ヘンリー・S・ストークス『なぜアメリカは、対日戦争を仕掛けたのか』（祥伝社新書）

三、言語と経営倫理の性格

- 1、西欧は粒の〈いのち〉である、個人より出立。理性と論理
- 2、ユダヤは民族的場の〈いのち〉から出立。意志と法秩序
- 3、日本は諸民族共存へ向けた和の共有。万機公論。情と気の秩序

おわりに：21 世紀と日本一

1. 場の〈いのち〉に生きる日本の復権と地球の生態系の維持の旗手として：日本的和の精神

2. 21 世紀における、表意文字と表音文字との伝統の唯一の継承者：日本の課題

ティモシー・ボイル『漢字に秘められた聖書・改訂版』（2006）

今日、韓国は漢字を完全に抹殺し、ハングルしか知らず、過去を学べなくなっている。中国は、それぞれの王朝の時代に漢字の読みは異なり、共通の漢字の読みはなく、今日では簡体字を文化大革命後制定し、使用している。韓国も、中国本土も共に若者が自国の過去の文献に当たって歴史を学ぶことができなくなっている。

3. 日本は、人類のすべての DNA を持つとともに、日本は、人類の歴史と伝統に開かれた唯一社会として、日本には宇宙という場と地球という場の〈いのち〉に責任がある。

清水 博『〈いのち〉の普遍学』（春秋社 2013）

以上の考察をもとに、各個企業における粒の〈いのち〉の増大を中核とした、企業倫理ではなく、地球という場の〈いのち〉に生きる 21 世紀の人類の平和的共存のために要請される経営倫理の確立が喫緊の課題である。